

研究タイトル: 新規な生理活性物質の開発および酵素を用いた光学活性物質の合成

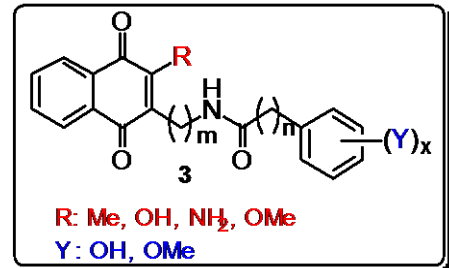
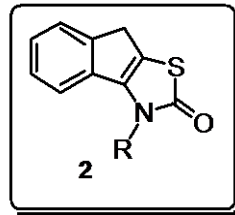
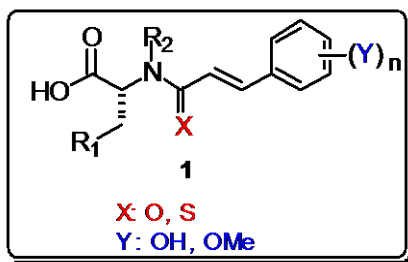


氏名:	後藤道理 / GOTO Michimasa	E-mail:	goto@nc-toyama.ac.jp
職名:	教授	学位:	博士(薬学)
所属学会・協会:	日本薬学会, 日本化学会, American Chemical Society		
キーワード:	抗腫瘍活性, アレルギー, 抗炎症作用, 酵素反応, 薬化学, 有機化学		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多核 NMR 測定</li> <li>・有機化合物の結晶化</li> </ul>		

### 研究内容: 機能性有機化合物の合成

大きく3種類の骨格を対象として、抗アレルギーおよび抗腫瘍活性を示す新規な化合物の開発を行なっている。1) ロスマリン酸の構造を参考にして、天然型および非天然型アミノ酸とポリフェノール酸とを縮合させたアミド体とそのチオアミド体を合成し、それらの中から抗アレルギー作用発現能有する化合物を見いだす事を研究テーマとしている。さらに抗腫瘍活性発現も期待している(化合物1)。2) オキサトミドやチアラミドといった医薬品の構造を参考にした2のような一連の化合物の合成を行なっている。窒素上の置換基中にはピペラジンを含むか、またはプロスタグランジン類の側鎖の構造を参考にして各種化合物を合成している。これらには抗ヒスタミン作用発現を期待している。3) 2位置換ナフトキノンの3位にアミド部分を含む側鎖を導入した一連の化合物を合成している。これらにはTXsに対するアンタゴニスト能発現を期待しているが、最近TXsとは別に、強い抗腫瘍活性を示す化合物も見つかっている(化合物3)。

その他、アルドースレダクターゼ阻害剤の開発にも関わっている。さらに酵素やパン酵母等の生体触媒を用いた光学活性化合物の合成も行なっている。



### 提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	
真空/窒素ライン	
クライオクーラー(NESLAB)	
真空検体乾燥機(石井理化)	
HPLC(GULLIVER/日本分光)	
遠心分離器(SCT5BA/日立)	